

★87. 5時間の特徴

「実践的・体験的な学習活動を通して、生活で実践する力をはぐくむ」ことに重点を置いた指導計画
 ・実践的・体験的活動を1, 2, 3学年次で実施して生活に必要な基礎的・基本的な知識および技術を発展的に扱い、具体的に学習することで、生活での実践を図る。
 ・有機的に関連させた題材構成の工夫→A家族・家庭と子どもの成長, D身近な消費生活と環境の学習内容を各題材に有機的に関連させた工夫ある構成とし、3年間の学習のつながりをもたせた。
 ・これからの生活を展望するストーリー性のある指導計画→習得した生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識と技術を自らの生活に活用したり、将来にわたって家庭生活をよりよく展望したりする場面設定や評価活動を積極的に取り入れ、3年間の学習内容にそれぞれのストーリー性をもたせる。

1年生(週1時間で実施)

2年生(週1時間で実施)

3年生(技・家で隔週で実施)

時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項	時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項	時間	題材(・学習内容)	指導要領 内容項																										
1	ダンス 3年間を見通したガイダンス	ABCD	36	日本の住まいから学ぶ安全・快適・エコな住まい方	ガイダンス(0.5) 住まいの役割	C(2)ア	71	幼児とふれあおう よりよい家族関係を考えよう	ガイダンス(0.5) 幼児の生活と遊びについて考えよう ・幼児の遊びを知ろう ・遊びを豊かにするものを考えよう	A(3)アイ																								
2	よりよい衣生活を目指そう	C(1)ア	37		日本の伝統的な住まい	C(2)イ D(2)ア	72		おもちゃの製作(3Rの実践)	A(3)イ D(2)ア	・おもちゃの製作(3Rの実践)																							
3			衣服の働きを考えよう		73		A(3)ウ					A(3)ウ																						
4			衣服の活用と選択をしよう		74								A(3)イ ウ	A(3)イ ウ																				
5			日常着の点検と手入れをしよう ・制服の点検		75										A(3)ア	A(3)ア																		
6			日常着の適切な手入れをしよう ・繊維の種類と洗濯		76												A(3)イ ウ	A(3)イ ウ																
7			・洗剤の働きとしみ抜き		77														A(3)イ ウ	A(3)イ ウ														
8			・ブラシかけ、アイロンかけ、収納		78																A(3)イ ウ	A(3)イ ウ												
9			・まとめ・発表(プレゼンテーション)		79																		A(3)イ ウ	A(3)イ ウ										
10			日常着の適切な補修の仕方を知ろう ・まつり縫い ・ミシンでのほころび直し ・スナップ付け		80																				A(3)イ ウ	A(3)イ ウ								
11			環境に配慮した生活を豊かにする 作品の製作をしよう (はしケース、ブックカバー、エコふろしき、ペットボトルケースなど)		81																						A(3)ア	A(3)ア						
12	・夏休みの課題(洗濯レポート)	82	A(2)イ ウ		A(2)イ ウ																													
13	自分の食生活を大切にしよう	B(1)ア				43	よりよい住生活を送るために ・まとめ・発表(ワークショップ)		C(2)ア イ D(2)ア	83	子どもにとっての家族を考えよう	A(3)ア																						
14				自分の食生活を振り返ろう ・人気メニューの仲間わけ		C(1)ウ C(3)ウ D(2)ア	44	環境に配慮した住生活を豊かにする 物の製作をしよう (エコバッグ、ウォールポケット、椅子 カバー、防災リュック、のれん、 テッシュボックスカバー、ネック クーラーなど)	C(3)ア イ D(2)ア	84			家庭と家族関係 ・家族関係をよりよくしていこう	A(3)ア																				
15				食事の役割を考えよう ・健康を支える3つの柱と食習慣			45			・夏休みの課題 (住まいの手入れレポート)					C(3)ア イ D(2)ア	85													を3年間の振り返り	A(2)エ B(3)ウ C(3)イ				
16				栄養素の種類と働きを知ろう ・栄養素の種類(食品実物カード) ・栄養と水の働き(簡易模型)			46									賢い消費者を目指そう	D(1)ア	86.5													3年間の振り返りをして、これからの 家族の在り方や家庭生活につ 考えよう (ライフデザイン、発表)	A(2)エ B(3)ウ C(3)イ		
17				何をどのくらい食べればいいのか を考えよう ・日常の食事と給食の量と内容の 比較			B(2)ア											47	消費者の基本的な権利と責任 ・消費者としての自覚をもとう ・商品の選択と購入について考え よう	D(1)イ													87.5	3年間の振り返りをして、これからの 家族の在り方や家庭生活につ 考えよう (ライフデザイン、発表)
18				・コンビニ弁当で考える食品摂取 量・群別摂取量のめやす			B(2)イ											48	販売方法と特徴、物資・サービス の選択、購入及び活用 ・消費者トラブルを解決する方法を 知ろう ・悪質商法のロールプレイングを 行おう		D(1)ア	A(2)エ B(3)ウ C(3)イ												
19				バランスのとれた食生活を考えよう ・1日分の献立を作成し、献立発 表会をしよう(家庭での調理課題)														49	・消費者の権利と責任を知ろう				D(1)ア イ	A(2)エ B(3)ウ C(3)イ										
20				自分の食生活を整えよう														B(2)ウ	50						・消費者トラブルを解決する方法を 知ろう	D(1)ア イ							A(2)エ B(3)ウ C(3)イ	
21																			基本的な調理操作を知ろう ・だしを使った汁物の調理 ・食品の調理用具の適切な管理 ・計量器の適切な使い方						51		・よりよい消費生活を目指して	D(1)ア イ						
22			野菜の調理をしよう ・いりどり ・野菜の浅漬け		52														環境に配慮した消費生活の工夫 と実践 ・3R、循環型社会、グリーンコン シューマー						D(2)ア B(3)ウ		A(2)エ B(3)ウ C(3)イ							
23	・食品の衛生的な扱い方 ・食品の適切な切り方 ・加熱調理と調味の仕方 ・冬休みの課題(正月料理に挑 戦)	53	エコッキングに挑戦しよう ・ドライカレー、野菜スープ		D(2)ア B(3)ウ						A(2)エ B(3)ウ C(3)イ																							
24	魚の調理をしよう ・魚の性質と調理方法 ・生鮮食品の扱い方 ・ムニエル ・温野菜サラダ	54	より良い食生活を目指して ・エコッキングと環境への配慮			D(2)ア B(3)ウ		A(2)エ B(3)ウ C(3)イ																										
25	肉の調理をしよう ・肉の性質と調理方法 ・ハンバーグの副材料と加熱方法 ・ハンバーグ ・にんじんのバター煮 ・さやいんげんのソテー	B(2)ウ	55						を取り地域 作り入や ろ入れ季 た節 ○食 弁材 当を	B(3)ア イ ウ D(2)ア		A(2)エ B(3)ウ C(3)イ																						
26			26										A(2)ア	A(2)ア																				
27			27												A(2)ア	A(2)ア																		
28			28				A(3)ア A(1)ア										A(3)ア A(1)ア																	
29			29																A(2)ア	A(2)ア														
30			30	A(2)ア														A(2)ア																
31			31																		A(2)ア	A(2)ア												
32			32																				A(2)ア	A(2)ア										
33			33		A(2)ア						A(2)ア																							
34			34			A(2)ア		A(2)ア																										
35	35	A(2)ア	A(2)ア																															

配慮事項等: ※各題材の実践的・体験的学習内容
 A(1)ア 成長のアルバム(幼児期)の活用
 (2)ア 家族と家庭生活のロールプレイング
 イ G. T. を活用してよりよい家族関係を考える
 (3)ア 幼児のいる施設訪問と幼児の生活の観察
 イ 幼児の遊び道具の製作
 ウ 幼児との触れ合い体験
 エ ライフデザインと実践
 (学習の振り返りをもとにした将来設計)
 B(1)ア 給食やコンビニ弁当の献立から食生活を考える
 地域の食材を生かした調理とG.T.の活用
 イ 食品実物カードと栄養の働きの模型活用
 (2)ア 調理実習を通して学ぶ食品の栄養と分量
 イ 中学生の1日分の献立作成と実践
 ウ 野菜・魚・肉の調理と食品の選択
 (3)ア 野菜の調理と食品と調理器具の管理
 イ 地域の食文化と調理
 ウ 環境に配慮した食生活の課題実践
 C(1)ア 衣服のコーディネート
 イ 衣服の商品・取り扱い絵表示の活用
 ウ アイロンかけ、まつり縫いなどの実習
 (2)ア サザエさんの家の模型と鳥瞰図を活用
 イ 安全・快適な住まい方、高齢者疑似体験
 (3)ア 環境に配慮した生活を豊かにする作品製作
 イ 環境に配慮した住まい方の課題実践
 D(1)ア 消費行動に関するシミュレーション
 イ 商品の販売・選択・購入のロールプレイング
 (2)ア 環境に配慮した消費行動の課題実践

※各学年のガイダンスでは学習の見直しをもたせ、既習の振り返りをもとにこれからの生活を展望させる。
 3年間の振り返りでは、これからの生活で実践したい衣食住に関する内容を課題とする。現在や将来の家族のために、自分が実践したいことを既習内容をもとに考え、言葉やイメージ図、作品で表現する。

技術・家庭科（家庭分野） 評価規準表

題材名	3年間の学習を見通したガイダンス（1時間扱い）
	『目指そう！家庭生活での自立 創ろう！将来の家庭生活』

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
A	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしている。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
B				
C				
D				

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 3年間の学習を見通し、将来の家庭生活について考える。 (1)	・衣食住や家族の生活などについて関心をもち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために意欲的に考えようとしている。			
---	--	--	--	--

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 ライフステージすごろく（生活の自立をテーマに自分の生活を振り返り、将来の生活を展望する）

中学校入学時をスタートに、生活の自立をゴールにした衣食住生活に関する自立度をチェックする。自立度のバランスを示したレーダーチャートをもとに、3年後の自分をイメージさせる。家族の生活や将来的な家庭生活については、選択式の解答を準備することで、望ましい衣食住生活の在り方や家族の生活などについて意識をもたせるようにする。卒業を前に再度チェックし入学時と比較することで、3年間の成長への気づきを将来の自分なりの家庭観につなげるとともに、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするための意欲付けとする。

3年間の家庭科学習では、自分と家庭、家庭と社会との重要な関係性に気付かせたい。そのために、人との関わりを重視した学習を通して、よりよい生活者を育む手立てとしたい。

* 2 ガイダンスシートの活用（言語活動の充実）

3学年間の学習が見通せるガイダンスシートを活用し、自分の学習した内容を「書くこと」で振り返りをさせる。また、「C衣生活の自立」と「B食生活の自立」の基礎的・基本的な知識や技術の習得を目指して、自分ができることから実践していこうとする意識を高める。

*** 3 グループ学習や協同学習での話し合いとキーワードを使った意見交換・発表会（言語活動の充実）**

グループ学習や協同学習での意見交流をして、新たな気付きや自分の考えを深める手だてとする。「生活の自立」「将来の家庭生活」のキーワードを使って、3年間の学習に自分なりの見通しをもたせる。さらに、意見交換や発表会の場を設定して学習の活性化を図る。

*** 4 ラーニングジャーナル（学びの軌跡）の活用（言語活動の充実）**

ラーニングジャーナルに学習の成果を自分の言葉で記録して、ポートフォリオ的に学習の積み重ねをする。習得した基礎的・基本的な知識や技術を、家庭生活で実践・活用するための工夫や創造する力に発展できるように書き方を指導する。家庭科の学習で綴るオリジナルストーリーの内容は、3年間の学習で積み重ねた生活に必要な知識・技術の記録や疑問・アイデアである。それらが生活での実践と結びつくように学習のキーワードを押さえ、それを発展させた書き方の指導や実践、継続や評価を行う。

技術・家庭科（家庭分野） 評価規準表

題材名	衣生活と自立（12時間扱い）
	『よりよい衣生活を目指そう』

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に についての知識・理解
C(1)	衣服の着用，選択，手入れについて関心をもって学習活動に取り組み，衣生活をよりよくしようとしている。	衣服の着用，選択手入れについて課題を見付け，その解決を目指して工夫している。	衣服の着用，手入れに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣服の着用，選択，手入れについて理解し，基礎的・基本的な知識を身に付けている。
C(3)	衣生活，住生活などの生活の工夫について関心をもち，布を用いた物の製作などに取り組み，衣生活又は住生活を豊かにするために実践しようとしている。	衣生活，住生活などの生活の工夫について課題を見付け，その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	布を用いた物の製作や衣生活，住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣生活，住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

<p>1. 衣服の着用について考えよう (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と社会生活との関わりに関心をもとうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた衣服の適切な選択について考え、工夫している。 ・目的に応じた着用と個性を生かす着用について考え、工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の社会生活上の機能について理解している。 ・衣服の着用にT. P. O. があることを理解している。
<p>2. 衣服の手入れの方法を知ろう (7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な制服の手入れに関心もちながら、課題に取り組もうとしている。 ・衣服の材料や状況に応じた日常着の様々な手入れの方法を知り、実習課題に取り組もうとしている。 ・基礎・基本の内容を押さえたキーワードを用いて、解決方法を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をもとに道具や洗剤を使って簡単にできる手入れの方法を紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の材料や汚れに応じた方法で日常着の洗濯ができる。 ・衣服の材料や状態に応じた日常着の様々な手入れの方法を知り、実習課題に取り組むことができる。 ・学習した補修の方法で補修することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既制服の表示から情報を読み取り、適切な手入れの方法があることを理解している。 ・電気洗濯機を用いた洗濯の特徴、汚れ方に応じた日常着の手入れの方法があることを理解している。 ・洗剤の働きと種類、しみ抜き必要性について理解している。 ・補修の目的と記事に適した方法について理解している。
<p>3. 学習したことをもとに、生活を豊かにする作品を作ろう (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・布を使った生活を豊かにする物を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補修の技術や既習の学習内容を生かした生活を豊かにする物を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補修の技術や既習の学習内容を生かしながら、製作することができる。 	

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 体験的な活動から実践へ（しみぬき・アイロンがけ・わが家の洗濯・補修などの体験的な活動）

日常着の手入れについては、中学生が日常着として着用することの多い綿、毛、ポリエステル（制服や体操着）などを取り上げ、丈夫さ、防しわ性、アイロンがけの効果、洗濯による収縮性など手入れに関わる基本的な性質を理解させる。また、材料に応じた手入れの仕方が分かり、日常着の洗濯などが適切にできるようにする。体験的な学習を生活での場面と結びつけるために、しみに応じて必要な洗剤を選ぶしみぬきや、必要な情報を取り扱い絵表示や組成表示から読み取ってからアイロンかけをするなどの体験的な実習を行う。補修については、補修の目的と布地に適した方法があることを知り、場合に応じた実践ができるようにする。

本題材は、「D身近な消費生活と環境」（2）の内容との関連を図り、循環型社会への理解が深まるように題材構成を工夫して指導する。

* 2 協同学習での話し合いとキーワードを使った意見交流・発表（言語活動の充実）

中学生が日常生活で起こり得る衣服のトラブル例に対して、既習の学習内容を生かして解決策を考える。協同学習での話し合いや解決策のプレゼンテーションを行うことで、新たな気付きや自分の考えを深める手だてとする。日常着の手入れに関する基礎的・基本的な知識や技術のキーワードを活用したCM形式のプレゼンテーションは、生活での実践意欲を高める目的もある。プレゼンテーションを通して、実践できるか、難しいかを自身の生活に置き換えて判断する。判断の理由についての意見交流が幾通りもの解決策に発展し、それぞれの日常生活と結び付いて自分にも実践が容易にできることを実感することができる。

* 3 ラーニングジャーナル（学びの軌跡）の活用（言語活動の充実）

衣服の補修や洗濯・アイロンかけなどの実践的・体験的な学習活動で習得した日常着の手入れに関する基礎的・基本的な知識や技術について、自分の言葉でラーニングジャーナルに記録させる。

本時の目標や評価項目に関するキーワード（洗い方、補修の仕方など）を提示して、キーワードを使って自分が習得できたことや生活で実践する場合のアイディアなどを自由に記述させることで、学習の知識や理解の習得を図り、生活での実践意欲につなげる。

技術・家庭科（家庭分野） 評価基準表

題材名	食生活と自立（7時間扱い）
	『自分の食生活を大切にしよう』

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に についての知識・理解
B(1)	中学生の食生活と栄養について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	中学生の食生活と栄養について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。		中学生の食生活と栄養について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。
B(2)	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の選び方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	日常食の献立と食品の選び方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 自分の食生活を振り返ろう (1)	・自分の食生活に関心を持ち、健康に良い食習慣について考え、日常生活で実践しようとしている。			
2. 食事の役割を考えよう (1)				・食事の役割や健康によい食習慣の重要性について理解している。
3. 栄養素の種類と働き・水の働きを知ろう (1)	・中学生に必要な栄養の特徴について関心を持ち、自分の食事と関わらせて考えようとしている。			・栄養素の種類と働きについて理解している。 ・中学生に必要な栄養の特徴について理解している。
4. 何をどのくらい食べればよいか考えよう (2)	・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量に関心を持ち、食品について調べたり、計量し	・自分の食生活を点検し、課題を見付け、健康に良い食習慣などについて考え、工夫している。		・食品の栄養的特質や食品群、食品群別摂取量の目安について理解している。 ・食品を食品群に分類したり、計量したり

	たりしようとしている。			する活動を通して、中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。
5. 1日分の献立を作成し家庭で実践してみよう (2)	・中学生の1日分の食事のとり方に関心をもち、必要な栄養量を満たす食事のとり方をしようとしている。	・中学生の1日分の献立について課題を見付け、必要な栄養量を満たすために料理や食品の組み合わせについて考え、工夫している。		・中学生に必要な栄養量を満たす1日分の献立の立て方について理解している。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 身近な食事から役割や栄養の働きを体験的に実感し、自分の食生活に生かす（言語活動の充実）

食事の役割や栄養素の種類や働きについて理解するために、食品実物カードで中学生に必要な食品の種類や量を視覚的に確認させたり、水の働きを示す簡易模型で体内での栄養の働きを実感させたりする。また、中学生に身近な給食やコンビニ弁当のメニューを活用する。中学生に必要な栄養の特徴を実際の給食で示し、教師の必要量や内容を比較させる。コンビニ弁当の具材を食品群別に分類する体験的な活動を通して、自分の食生活の振り返りをして食生活の改善と実践につなげる。

ワークシートを活用して、食事のとり方→食品の種類と量→食品に含まれる栄養とその働きに関する様々な語彙の意味を実感を伴った理解につなげる。体験的な学習での気づきや感想は、話し合いや発表の場で自分の言葉で表現させる。実感が伴った食生活に関する知識をラーニングジャーナルに積み重ねていくことで、学習を自分の食生活に生かす手立てとする。

* 2 体験的な活動から実践へ（実践的・体験的な活動）～献立作成・家庭での実践～

中学生の1日に必要な食品の概量や食品群別摂取量の目安については、実際の食品や調理品を活用して実感が伴う理解を目指す。必要量での調理実習やその試食から、どのような食品をどのくらい食べたらよいのかを体験させたり、給食の献立を食品群別に分類・計量させたりして、1日に必要な食品の概量を視覚的に理解できるようにする。実際の必要量と概量の関係性については、中学生が1日に必要な食事の量を調理前と調理後の実物を比較することで理解につなげる。

中学生の1日分の献立作成については、細かい数値にとらわれず、食品の概量でとらえて考えることができるように、給食の献立表を活用する。そのうちの1食分を家庭で調理する課題を設け、生活で実践する機会とする。家族から、調理の手順や試食のアドバイスをもらうことで実践の継続の意欲付けとする。さらに、全体的な栄養のバランスを考えた1日分の食事が作れるように学習を発展させ、生活での実践・継続の手立てとする。

* 3 ワークシートの工夫

食品と栄養素の働き、中学生の1日に必要な食品の概量や食品群別摂取量の目安、何をどのくらい食べればよいのかなど、体験的に理解した知識を図やグラフを用いて表現することで、視覚的に理解させる。また、食生活の振り返りと改善や1日分の献立作成では、レーダーチャートを活用してバランスのとれた食事が整えられるような工夫をする。

生活で実践する課題や機会を複数設定し、家庭での実践を継続できるワークシートを作成する。コメントによる評価や実践記録の掲示、生徒間での意見交換の資料とすることで、実践の意欲付けとする。

技術・家庭科（家庭分野） 評価規準表

題材名	食生活と自立（15時間扱い）
	『自分の食生活を整えよう』

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に ついての知識・理解
B (2)	日常食の献立と食品の選び方について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	日常食の献立と食品の選び方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	食品の選び方に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	日常食の献立と食品の選び方について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 基本的な調理操作を知ろう (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常食の調理に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な日常食の調理について、調理に必要な手順や時間を考えて計画したり、食品の調理上の性質を生かした調理を工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 （ <ul style="list-style-type: none"> ・洗い方 ・切り方 ・加熱調理（煮る、焼く、炒める） ・調味 ・盛り付け ・配膳 ・後片付け ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができる。 （ <ul style="list-style-type: none"> ・魚や肉などの生の食品 ・ふきん、まな板、包丁などの調理用具 ・調理用熱源 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の調理上の性質について理解している。 ・加熱調理と調味の要点について理解している。 ・食品や調理用具の安全と衛生に留意した取扱い方について理解している。 ・生鮮食品と加工食品の表示の意味と良否の見分け方について理解している。 （ <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度 ・原産地 ・原材料 ・食品添加物 ・栄養成分 ・期限表示 ・保存方法など
2. 野菜の調理をしよう (3)				
3. 魚の調理をしよう (3)				
4. 肉の調理を知ろう (3)				

<p>5. 食品の選び方を考えよう (4)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・用途に応じた食品の選択について、収集・整理した情報を活用して考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選択における観点について理解している。 ・目的 ・栄養 ・価格 ・調理の能率 ・環境への影響など
--------------------------------------	--	---	--	---

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 体験的な活動から実践へ（基本的な調理操作や野菜・魚・肉の調理実習などの体験的な活動）

基本的な調理操作では、だし汁のとり方から汁物の調理を通して調理用具や計量器具の適切な管理と使い方を習得させる。

日常食の調理では、いりどりや野菜の浅漬け、ムニエル、ハンバーグの実習を通して、食品の衛生的な扱い方や適切な切り方、加熱調理や調味の仕方を習得させる。調理の基本的な操作や食品の選び方の基礎的・基本的な知識や技術を身に付けさせるとともに、付け合わせを考える活動から望ましい献立を立て、自らが自分の食生活を整えようとする生活での実践につなげたい。

正月料理の実践課題は、家庭の伝統食や蝶理技術を知る機会とするとともに、学習と生活を結び付ける手立てとする。

* 2 協同学習や相互評価を通して気付きやアイデアを共有し、自分の生活に生かす（言語活動の充実）

実践的・体験的な学習活動はグループで協同的に行う。生活経験やアイデアの情報交換をして調理技術のスキルアップにつなげていく。アドバイスを交換することで、自己の生活での工夫・創造に発展させていく。

包丁のスキルコンテストでは、相互評価をさせることで正しい包丁の使い方を確認・習得させる。調理実習では、出来上がった調理品の仕上がりの良さを指摘したり、盛りつけの工夫点を評価したりして、気付きやアイデアを共有する。これらの活動は、調理に関する基礎的・基本的な知識や技術の語彙の意味を実感を伴って理解させるとともに、自分の生活に置き換え、実践するための手立てとする。

* 3 体験的な学習活動と五感を通して、食に関する基礎的・基本的な知識や技術の習得を図る。

- ・肉・魚・野菜の調理と栄養などの知識を結び付ける。（食品実物カードの活用、旬の食品の分類）
- ・食品選択のシミュレーションを通して、生活で実践するための意欲付けをする。
- ・デジタルコンテンツを活用した魚の鮮度の見分け方、生鮮食品、加工食品の表示方法
- ・調理操作、及び手順の提示（パワーポイント・実習例・動画集）
- ・自作の調理品と市販品で味や使用材料、価格等を比較する。（ハンバーグの食べ比べ）
- ・中学生が必要な野菜の量を生、塩でもむ、加熱調理をした場合で比較し、かさの変化を視覚で理解する。

技術・家庭科（家庭分野） 評 価 規 準 表

題材名	住生活と自立（15時間扱い）
	『工夫しよう 安全で快適なエコな住まい方』

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に についての知識・理解
A B C D	衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしている。	衣食住や家族の生活などについて見直し課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
C (2)	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもって学習活動に取り組み、住生活をよりよくしようとしている。	安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付けその解決を目指して工夫している。		住居の機能について理解し、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
C (3)	衣生活や住生活などの工夫について関心を持ち、布を用いた物の製作などに取り組み、住生活を豊かにするために実践しようとしている。	衣生活や住生活の工夫について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	布を用いた物の製作や衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
D (2)	環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境との関わりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 1年間の学習を見通す (0.5)	衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、これからの生活を展望して家庭生活をよりよくするため			
--------------------------------	--	--	--	--

	に意欲的に考えようとしている。			
2. 住まいの役割を考える (0.5)	自分や家族の住空間と生活行為とのかかわりについて関心をもって取り組んでいる。			住居の基本的な機能について理解している。
3. 日本の伝統的な住まい (1)				日本の伝統的な住まいの特徴やよさについて理解している。
4. 家族と住まいの関わり (1)				
5. 安全な住まい方 (2)	安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。			家庭内事故の防止、自然災害への備えについて、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。
6. 健康で快適な室内空間を考えよう (2)				室内の空気調節、音と生活との関わりについて、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。
7. よりよい住生活を送るために (2)		室内環境について課題を見付け、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方や住まい方について考え、工夫している。		自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。
8. 環境に配慮した住生活を豊かにする物の製作をしよう (6)	布を用いたものの製作に関心をもって取り組み、自分や家族の住生活を環境に配慮して豊かにしようとしている。	環境に配慮した住生活を豊かにするため、の製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。	用具を安全に取扱い、目的に応じた縫い方で、布を用いた物の製作をすることができる。	布を用いた物の製作について、材料と用具の選択、製作手順、目的に応じた縫い方、用具の安全な取扱いに関する知識を身に付けている。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 題材構成の工夫とガイダンスシートの活用。（言語活動の充実）

第1学年の既習内容を振り返るガイダンスシートを活用し、自分の学習した内容を「書くこと」で振り返りをさせる。

第2学年の学習内容は「環境に配慮した生活」を柱に、「住まい」「消費生活」「地域の食材」「家庭や家族の機能」のそれぞれの題材と抱き合わせて構成する。ガイダンスを通して複数の学習内容に見通しをもたせるとともに、自分の生活に関わる身近な環境について考え配慮しようとする意識を高める。

* 2 「日本の住まいと住まい方」を通して「日本らしさ」を体験と言葉で重ね合わせて実感する。 （言語活動の充実）

住まいに関わる「日本らしさ」を感じさせる言葉を実感を伴わせて理解させるために、実物や体験的な活動を通して言葉と実物をつなぎ合わせる。

畳・引き戸・障子・ふすま・軒・ひさし・すだれなど、日本の住まいに関わる名称を写真等で知らせる。また、風鈴・浴衣・うちわ・扇子・打ち水など、昔から伝承されてきた住まい方やその文化のよさに気付かせる。さらに、強い日差しを遮るすだれの効果や浴衣の着装で感じる清涼感などの体験を通して、日本の気候や風土に適した住まい方の特徴や住まいに関する基礎的・基本的な知識や技術を言葉で押さえる。

* 3 体験的な活動を通して安全性や快適さを実感させ、生活での実践につなげる。

幼児や高齢者の疑似体験を通して、安全で快適な住まい方を自分の生活に置き換えて考えさせる。

手すりや滑り止めマットの効果を実験したり、家具の揺れや騒音の実験をして五感で感じたりすることは、家庭内で事故に遭いやすい幼児や高齢者の立場を理解することにもつながる。様々な年齢で構成されている家族が安心して快適に暮らせる住まい方をキーワードに、ワークショップでの話し合いや発表を通して、自分の住まい方の振り返りをさせて、生活で実践しようとする意識を高める。

夏休みの課題「住まいの実践レポート」は、自分の住まいへの気付きを安全や災害対策、環境に配慮した住まい方につなげる実践課題である。例えば、階段に滑り止めを設置して高齢者への安全を確保したり、緑のカーテンや打ち水の効果を体験して環境に配慮した住まい方についての理解を深めたりする活動としたい。さらに、報告会や掲示発表を通してレポートを活用し、言語活動の充実を図る。

* 4 住まいの模型、鳥瞰図、デジタルコンテンツの活用

住まいに対する価値観や生徒の住環境は様々である。共通の住まいを題材にすることで、客観的な気付きや様々な発想が期待できる。そのために、サザエさんの家を題材にして家族構成や生活スタイル、地域に合わせた住まい方について考えさせる。また、鳥瞰図や模型、コンピューターグラフィック（CG）を活用しながら、住まいについて多方向から考える力を養いたい。

* 5 環境に配慮した住生活を豊かにする物の製作

夏を涼しく過ごすために工夫できることを考える。学んだことを生かして、「のれん」「ネッククーラー」「ひんやり枕カバー」など、清涼感を感じさせる小物の製作をする。ミシンの直線縫いなどの基礎縫いを活用し、さらに布の絞り染めや刺し子、刺繍を取り入れて発展的に製作できるようにする。生徒のアイデアや工夫はもちろん、環境への配慮についても追求させる。また、自分で着用できなくなった衣服を「トートバッグ」「エコバッグ」「防災リュック」などにリフォームしたり、リサイクル素材の布地に着目させたりする。

生活を豊かにする布を用いた物の製作を通して、「快適」「安全」「エコ」をキーワードに住まい方を工夫する力を育てる。

技術・家庭科（家庭分野） 評価規準表

題材名	身近な消費生活と環境（6時間扱い）
	『賢い消費者を目指そう』 ～消費者トラブルのシミュレーションや悪質商法のロールプレイングを通して～

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に についての知識・理解
D(1)	家庭生活と消費について関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	家庭生活と消費に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活と消費について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。
D(2)	環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 消費者としての自覚を持つ (1)	・自分や家族の消費生活について関心をもち、消費生活の在り方を改善しようとしている。			・消費者の基本的な権利と責任、消費者基本法の趣旨について理解している。
2. 消費者トラブルを解決する方法を知ろう (4)	・身近な販売方法について関心をもち、その利点と問題点について考えようとしている。	・収集・整理した情報を活用して物資・サービスの選択、購入及び活用について考え、工夫している。	・物資・サービスの選択、購入及び活用について必要な情報を収集・整理することができる。	・中学生に関わりの深い販売方法の特徴について理解している。
3. 生活と環境の関わりについて考えよう (1)	・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。	・自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。		・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 模擬家族で家計の収支（家計簿）をシミュレーション

（生活の自立をテーマに自分の生活を客観的に振り返り、将来の生活を展望する）

模擬家族を設定し、家計の収支を家計簿に記入する活動を通して、家庭生活における消費の重要性に気付かせる。また、消費者の基本的な権利と責任についても理解し、中学生の身近な消費行動と関連付けることで、消費者としての自覚を高め、物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができるようにする。家計の収支活動のシミュレーションは、自分や家族の生活の仕方や消費の在り方を改善しようとする消費者としての自覚をもたせるねらいがある。家族や自分の消費生活を考えることで、自分の消費に使える金銭には限りがあることや優先順位を考えた計画的な支出が必要であることに気付かせ、将来の消費生活の在り方につなげたい。

模擬家族や消費内容など、「A家族・家庭と子どもの成長」「B食生活と自立」「C衣生活・住生活と自立」の学習との関連を図ることで、情報社会における消費生活の変化に対応し、身近な消費活動と関わりについての理解を深める手立てとする。

* 2 消費者トラブルや悪質商法についてのロールプレイング（言語活動の充実）

自分や家族に関わる消費について、新聞や資料を活用して問題解決的な学習を行う。消費者トラブルの記事や悪質商法、消費生活センターなどの各種相談機関に相談されたトラブル例を調べる。また、D（1）イの事項との関連を図り、中学生に関わりの深い事例を取り上げて、ロールプレイングを行う。ロールプレイングでは、消費生活センターなどの相談機関やクーリング・オフ制度などの解決手段についても具体的に触れることで、自分の生活につなげて考えられるようにする。

悪質商法の販売方法の特徴を理解し、適切な対応を知ることによって、自分の消費生活に関心をもたせ、将来にわたって学習を生活で実践しようとする主体的な態度を養いたい。

* 3 消費者トラブルの解決方法についてのシミュレーション（言語活動の充実）

学習のまとめに複数のトラブル例を提示し、シミュレーションしながら解決方法を協議する。既習の知識を活用して状況に応じた解決策を知り、自分の考えや知識を深める手だてとする。

生活に必要な物資・サービスの選択、購入に当たっては、本当に必要かどうかの判断が大切であることに気付くようにし、多くの情報の中から適切な情報を収集し、物資・サービスの適切な選択ができるようにする。その際、アフターサービスや環境への配慮など、それぞれに応じた選択の視点が必要であることを理解させる。そのためにも、互いの情報を共有・交換し、個々の理解を深めるために言語活動の充実を図る。

* 4 消費生活と環境に配慮した生活と3Rの実践（デジタルコンテンツの活用）

自分や家族の身近な消費生活が環境に与える影響については、環境に配慮した行動やエコチェックを通して生活を振り返りながら考えさせたい。一人一人の環境に配慮した行動が、循環型社会を形成する基盤となることに気付くために、年間ゴミ排出量とリサイクル量の推移をデータや写真で示したり、3R「リデュース（減らす）」「リユース（再使用）」「リサイクル（再資源化）」の実践例を画像で示したりする。

本題材は「B食生活と自立」「C衣生活・住生活と自立」の学習と有機的な関連を図るものである。環境に配慮した持続可能な社会を展望して、一人一人が環境に配慮した生活を送る必要性に気付かせたい。その上で、循環型社会を目指して、生活の在り方を工夫し、身近にできる実践例を考えさせる。食品の選択や購入、調理や、環境に配慮した着方や住まい方など、生活での具体的な場面や社会とのつながりに関連させながら実践的に学習する。社会において、主体的に賢く生きる消費者を育みたい。

技術・家庭科（家庭分野） 評価規準表

題材名	身近な消費生活と環境（4時間扱い）
	『エコ調理をしよう』 ～環境に配慮した消費生活をふまえたエコ調理の実践を通して～

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に についての知識・理解
D(2)	環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。
B(3)		日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 生活と環境のかかわりについて考えよう (1)	・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。	・自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。		・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。
2. 環境に配慮したエコッキングに挑戦しよう (3)		・日常食又は地域の食材を生かした調理などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。	・調理の目的や食材にあった基本的な調理操作ができる。 （・洗い方 ・切り方 ・加熱調理（煮る、焼く、炒める） ・調味 ・盛り付け ・配膳 ・後片付け ・安全と衛生に留意し、食品や調理器具等	

			<p>の適切な管理ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚や肉などの生の食品 ・ふきん，まな板，包丁などの調理用具 ・調理用熱源 	
--	--	--	--	--

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 「D身近な消費生活と環境」と「B食生活と自立」

本題材は、「D身近な消費生活と環境」と「B食生活と自立」の学習内容を相互に関連を図り、総合的に展開するものである。

自分や家族の身近な消費生活が環境に与える影響については、食事のとり方や環境に配慮した調理や片付け方、買い物の仕方など、食生活を振り返りながら考えさせたい。一人一人の環境に配慮した行動が、社会とつながって循環型社会を形成する基盤となることに気付かせる。そのために、実際の市販の弁当を教材にして使い捨て容器やリサイクル可能な容器、食品の包装に着目させた学習を行う。3R「リデュース（減らす）」「リユース（再使用）」「リサイクル（再資源化）」を実践するための行動を話し合ったり、意見交換したりして、身近にできる実践例を考えさせる。具体的な事例を通して考え、食生活の在り方を工夫する実践的な学習としたい。

* 2 環境に配慮したエコ調理

環境に配慮したエコ調理とは、消費と環境をふまえた上で食に関する買い物や調理、後片付けをすることである。一人一人が環境に配慮した食生活を送ることの必要性に気づき、循環型社会を目指して食生活の在り方を工夫し実践できるために、エネルギーや水の節約、ゴミを減らす工夫を取り入れた以下のような実践的・体験的なエコ調理実習を行う。

実習例「ドライカレー」「野菜スープ」は、冷蔵庫に残った食材を利用したり、野菜の皮や芯の部分も使って材料を無駄なく調理したりすることができる献立例である。みじん切りにすることが調理の時間短縮につながり、省エネルギーとなることにも気付かせる。食材購入時には、簡易包装やリサイクル可能な包装のものを選んだり、エコバッグを活用したりしてゴミの減量化を図らせる。後かたづけの際、食器や調理器具などの油汚れを古紙や古布で拭き取ったり、エコたわしを利用したりする方法にも触れることで、限りある資源を有効に利用するための実践ができるようにさせる。体験を通して、環境に配慮した行動が伴った調理操作や調理に関する基礎的・基本的な知識や技術についても習得させる。

本題材のエコ調理では、地域の環境へも着目させることで課題をもって日常食の調理を工夫し、実践しようとする意欲と態度を育てることをねらいとしている。地域産の食材やそれらを育てる豊かな自然と環境との大切なつながりについての関心と理解を深める。さらに「D身近な消費生活と環境」（1）イ、（2）の学習との関連を図ることで実践的な学習とすることができる。

* 3 ラーニングジャーナルを活用したエコ調理のまとめ新聞（言語活動の充実）

エコ調理の学習での気づきや習得した知識や技術は、ラーニングジャーナルに自分の言葉で記録する。それらを活用して、オリジナルのエコ調理新聞や広告を制作する。学習を生活での実践と結び付けるために、アイデアや工夫をつなぎ合わせて言葉や絵、図に表現する。学習のキーワードを押さえて生活に必要な知識や技術を習得させるとともに、報告会の資料や掲示発表として活用することができる。

技術・家庭科（家庭分野） 評価規準表

題材名	食生活と自立（6時間扱い）
	『地域や季節の食材を取り入れた〇〇弁当を作ろう』

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に ついての知識・理解
B(3) アイウ	日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
D(2) ア	環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 地域の特産物や食文化を知ろう (2)	・地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心をもっている。			・地域の食文化の意義について理解している。
2. 食生活を改善するための弁当を作ろう (4)	・自分や家族の食生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的に捉え、日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画と実践に取り組もうとしている。	・自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画を工夫している。 ・日常食又は地域の食材を生かした調理などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。	・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。	・食品の調理上の性質について理解している。

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の消費生活の点検をし、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている
---	--	---

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 問題解決的な学習（言語活動の充実）

食生活を見直し、課題を見つけてお弁当づくりの計画を立てる。その際、自分の食生活での実践、評価、改善という一連の学習活動を重視する。グループでの話し合いでは、自分の考えやアイデアが自由に表現できるような場の設定や互いにアドバイスをし合えるような工夫をする。さらに、検討会や発表会を設けるなどして、言語活動を積極的に行う。問題解決的な学習を通して、既習の学習で身に付けた知識や技術を活用し、家庭で実践しようという意欲や態度にもつなげていきたい。

* 2 ゲストティーチャー（G. T.）の活用

地域の特産物や昔から伝わる伝統色食や郷土料理に関心をもたせるために、地域の食のプロをG. T.として活用する。地域でとれる食材やその活用方法、郷土料理やその由来についての話を聞いたり、実際の料理を試食したりする。地域の食のプロから話を聞くことで、地域食材を使うよさに気付くとともに、地域への愛着や愛郷心を育みたい。

食生活の課題を解決するためのお弁当作りでは、地域の特産物を活用した調理に発展させる。そのために、調理計画の際に相談やアドバイスをもらったり、調理操作を支援してもらったりする。仕上がった調理品を評価してもらうことで、食生活の改善や将来的によりよい食生活を送ろうとする意欲付けとしたい。

* 3 ワークシートの工夫（言語活動の充実）

自分の食生活での実践、評価、改善という一連の学習活動の流れが把握できるとともに、生徒の思考の流れが分かり、教師がそれを評価できるワークシートを工夫する。

お弁当の献立作りでは、自分の食生活の実態と課題を明確にさせた上での計画を立てる。自分なりの気付きやアイデア、G. T. 友達のアドバイスを吹き出しに書き込めたり、既習のラーニングジャーナルを活用して、献立のヒントをメモしたりできるようにする。各自が考えたお弁当は、文字や絵、写真など自由な表現ができるようにする。グループ発表会での意見交換をもとに弁当の献立をよりよく改善できるようにする。計画から調理、評価、改善ができる実践的なワークシートとしたい。

* 4 レポートの活用（言語活動の充実）

地域や季節の食材を使った弁当づくりの学習をレポートにまとめる。地域の食材の活用例や郷土食の由来や調理方法など、ワークシートやラーニングジャーナルを活用してレポートにまとめる活動は、生活に必要な知識や技術を習得させるとともに、生活での実践の一助となる。

掲示発表することで、読み手を意識した表現の工夫をしたり、下級生へのPRをして題材への意欲付けをしたりして、家庭科の学習内容を学校や家庭、地域に発信する。さらには、自分の住む地域のよさを知らせ、地域活性につながる学習としたい。

技術・家庭科（家庭分野） 評価規準準表

題材名	家族・家庭と子どもの成長（4時間扱い）
	『自分の成長を振り返ろう』

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
A(1)	3学年の学習に見通しをもち、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて関心をもって学習活動に取り組もうとしている。			
A(2)	家庭と家族関係について関心をもって学習活動に取り組み、家庭生活をよりよくしようとしている。	家庭と家族関係について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。		家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわりについて理解している。
A(3)	家庭と家族関係について関心をもって学習活動に取り組み、家庭生活をよりよくしようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 家庭や地域の機能や地域とのかかわりを考えよう。 (2)	・家庭生活と地域とのかかわりに関心をもち、地域の人々とかかわりについて話し合うことなどを通して、地域の人々とのつながりの大切さに気付いている。			・家庭や家族の基本的な機能について理解している。 ・家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解している。
2. 幼いころを振り返ろう (幼児期のアルバム) (0.5)	・自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられてきたことに気付いている。			

<p>3. 幼児の心身の発達と生活を考えよう (1. 5)</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達の特徴について理解している。 ・身体の発育 ・運動の機能 ・言語, 情緒, 社会性 ・幼児の発達を支える家族の役割について理解している。 ・子どもの保護 ・情緒の安定 ・社会性
--	--	--	--

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 幼児の心身の発達の特徴を知り、自分の成長を振り返る。（言語活動の充実）

幼時期の心身の発達について、資料やビデオを視聴してその特徴を知る。年齢ごとの一般的な心身の発達の目安を数字や言葉で表やグラフに書き込んだり、情緒の発達の特徴的な場面をビデオで視聴したりする活動を通して、幼児期の成長を視覚や言葉で理解する。「自分史」の製作が可能な場合は、誕生からの幼児期の心身の成長やエピソードなどをまとめることで、関心をもって学習に取り組めるであろう。

家族の学習に際して、家庭や家族の協力が得られる場合は家族とのコミュニケーションをとる機会を積極的に設けていきたい。家族へのインタビューや母子手帳から成長の様子を聞いたり、アルバムの写真からエピソードを聞いたりして、自分の成長を振り返らせたい。会話を通して、家族の存在に支えられてきたことに気付かせ、家族や子どもの成長の学習への関心をもたせたい。

配慮事項として、生徒や学級の実態を十分把握する必要がある。自分の家族に触れたくない生徒への言葉かけや、プライバシーには十分配慮する。その場合、教材用ビデオを活用したり、近隣の幼稚園、保育所への協力依頼をしたりすることも幼児期の成長を知る手立てのひとつになる。

* 2 自分と地域・子どもとの関わりを考える。（実践的・体験的な学習活動）

日常生活において、中学生が地域や子どもとどのくらい関わっているか、自分の生活をチェックさせる。

地域の祭や廃品回収への参加やゴミ集積場の利用、児童公園の利用や知り合いの幼児へのあいさつなど、無意識に関わっていることへも気付かせたい。また、自分は地域の中で育ち、子どもは地域に守られて成長する大切なつながりについても理解させたい。そのために、地域の公民館や児童館、ゴミ集積所の場所を通学時に改めて確認させたり、幼児を見かけた際の周囲の安全確認をさせたりする。

自分の地域や子どもに目を向ける機会を設けて実態を知ること、中学生の自分が地域や子どもとどのように関わっていくべきかを考えさせたい。

技術・家庭科（家庭分野） 評価規準表

題材名	家族・家庭と子どもの成長（4時間扱い）
	『幼児と触れ合おう 考えよう！よりよい家族関係』

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に についての知識・理解
A(1)	3学年の学習に見通しをもち、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて関心をもち、学習活動に取り組もうとしている。			
A(2)	家庭と家族関係について関心をもち、学習活動に取り組む、家庭生活をよりよくしようとしている。	家庭と家族関係について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。		
A(3)	幼児の生活と家族について関心をもち、学習活動に取り組む、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。
D(2)	環境に配慮した消費生活について関心をもち、学習活動に取り組む、よりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を見に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 1年間の学習を見通す (0.5)	・3学年の学習に見通しをもち、・幼児の生活や家族について関心をもち、学習活動に取り組もうとしている。			
--------------------------------	--	--	--	--

<p>2. 幼児の生活と遊びについて考えよう (1.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児に関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びの意義について理解している。
<p>3. おもちゃの製作 (3Rの実践) (3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児に関心をもっている。 ・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している。 ・自分や家族の消費生活を点検し、環境について考えた実践を通して自分なりに工夫したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びの意義について理解している。 ・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。
<p>4. 幼児と触れ合う (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設訪問の計画 (1) ・施設訪問 (2) ・施設訪問のまとめ (1) ・発表 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児と触れ合う活動を通して、幼児に関心をもち、適切にかかわろうとしている。 ・家族又は幼児の生活をよりよくすることに関心を持ち、課題を主体的に捉え、おもちゃの製作や幼児と触れ合う動などの計画と実践に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の心身の発達に応じた関わり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。 ・製作や幼児と触れ合う活動などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びや幼児の発達と家族との関わりなどについて、観点に基づいて観察し、整理することができる。 	
<p>5. 子供にとっての家族を考えよう (1)</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割について理解している。
<p>6. 家族関係をよりよくしていこう (3.5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの自分と家族との関わりに関心をもち、家族関係をよりよくするためにできることを実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や事例の家族について課題を見付け、家族関係をよりよくする方法を考え、工夫している。 		

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 題材構成の工夫とガイダンスシートの活用。（言語活動の充実）

2年間の既習内容を振り返るガイダンスシートを活用し、振り返りをさせる。

第3学年の学習内容は「家族・家庭と子どもの成長」を中心に学習する。実際に幼児と触れ合う活動を通して、将来、自分の理想とする家庭観をもたせたい。最後に、A（2）エ、B（3）ウ、C（3）の内容を扱い、中学校3ヵ年の家庭科学習の集大成となるように、題材構成を工夫した。

3年間で習得した生活に必要な知識・技術やラーニングジャーナルを活用して、自分や身の周りから課題を見付け、工夫し、計画を立てて実践する。この実践課題を通して自分の将来展望し、よりよく生活しようとする意欲を高め、実践できる態度を育てたい。

* 2 幼児との触れあいとおもちゃの製作（幼稚園・保育所訪問）

地域にある近隣の幼稚園や保育所に協力を依頼し、2回の訪問を通して幼児と触れ合う活動を行う。

1回目の訪問は教師のビデオ撮影である。ビデオを視聴して、幼児にとっての遊びや遊び道具の役割を理解させるために、心身の発達や遊び方について十分に観察させる。おもちゃを製作する際、対象年齢が明確であれば発達段階を考えたり、工夫したりすることができる。また、より具体的な目標をもつことで対象幼児に適したおもちゃの製作に取り組むことができる。おもちゃ製作の材料には、空き箱や食品容器、衣服の古布などを活用する。環境への配慮が目的であると同時に、不要な物が工夫次第で生活に役立つ物に変わることを体験を通して実感させたい。可能であれば、長期休暇を利用して生徒が訪問したり、職場体験学習や総合的な学習などを活用して直接触れ合ったりする機会を設けたい。中学校に園児を招く交流会が可能な場合、1回目よりも2回目の触れ合いはより親密になる。2回目の触れ合いまでの期間、教室での学習意欲の高まりが幼児理解への深まりにつながるだけでなく、対象幼児に対する思いはより強くなるだろう。

* 3 幼児との触れあいと遊びについて（幼稚園・保育所訪問）

2回目の訪問は、製作したおもちゃで遊ぶ様子を観察し、幼児にとっての遊びや遊び道具の役割の重要性を理解させる。おもちゃへの反応やおもちゃから広がる遊び方を観察することで、自分の成長過程を振り返る機会とし、幼児理解を深められるようにする。

触れ合い体験から学んだことをグループで話し合い、関わり方の工夫や自分が理想とする家庭観にまで話題を発展させたい。将来の自分が、家族や子どもをもちたいという思いがもてるような活動としたい。

* 4 ロールプレイングで家族との関わり方を考える（実践的・体験的な学習活動）

中学生のいる模擬家族を設定し、日常で起こり得る事例をもとにロールプレイングを行う。ロールプレイングを通して、それぞれの事例への対応の仕方や家族との関わり方についての課題を見付けられるようにする。家族の在り方について客観的に考えたり、意見を交換したりできるように、模擬家族で役割演技をさせる。会話や言葉の表現を生徒自身に考えさせることで、日常でありがちな事例としたい。学習を通して、実際の自分の場合に置き換えて考えられるように、よりよい解決策だけでなく、家族が不快になる態度から相手に与える印象についても気付かせながら学習を展開する。

* 5 第3者の大人の話から家族の在り方を考える。（ゲストティーチャー（G. T.）の活用）

中学生の時期は、自分の家族や身近な大人に対して意見に耳を傾けたり、素直に受け入れたりすることが容易にはできない場合が多い。しかし、身近ではない第3者の大人に対してならば、客観的に自分の考えを伝え、話に耳を傾けようとするのではないかと考えた。そこで、G. T.を活用し、ロールプレイングの事例で抱いた疑問を投げかけ、やりとりを通して自分に置き換えて考えることで、気持ちの変容に迫りたい。G. T.は話を聞くだけでも一方的に意見するだけでもない。質問に対して、なぜそう思うのか、～な場合はどう対応するのか、など生徒に質問したり、体験を交えて話したりしながら生徒の中の葛藤を解消していく。

G. T.は、スクールカウンセラーや民政委員、医師、児童相談員などが考えられる。授業者とのロールプレイに対する共通理解が必要であり、事前の綿密な打ち合わせとG. T.の選択が目標達成の要となる。

技術・家庭科（家庭分野） 評価基準表

題材名	3年間の学習の振り返りとこれからの家庭生活（3時間扱い） 『振り返ろう！3年間の家庭科学習 展望しよう！これからの家庭生活』
------------	---

1. 評価規準に盛り込むべき事項

	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に についての知識・理解
A(3)エ	幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組み、家族又は幼児の生活をよりよくするために実践しようとしている。	幼児の生活と家族について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活と家族に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	幼児の生活と家族について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。
B(3)ウ	日常食の調理と地域の職分について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を活かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
C(3)イ	衣生活、住生活などの生活の工夫について関心を持ち、布を用いた物の製作などに取り組み、衣生活又は住生活を豊かにするために実践しようとしている。	衣生活、住生活などの生活の工夫について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	布を用いた物の製作や衣生活、住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣生活住生活などの生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

2. 学習内容及び評価規準の設定例

1. 3年間の振り返りをしてこれからの家族の在り方や家庭生活について考えよう（ライフデザイン、発表） (3)	・これからの自分と家族との関わりに関心を持ち、家族関係をよりよくするためにできることを実践しようとしている。			・家庭や家族の基本的な機能について理解している。 ・家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解している。
---	--	--	--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の食生活をよりよくすることに興味をもち、課題を主体的に捉え、日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画と実践に取り組もうとしている。 ・自分や家族の衣生活又は住生活をよりよくすることに興味をもち、課題を主体的に捉え、製作や調査などの計画と実践に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画を自分なりに工夫している。 ・日常食又は地域の食材を生かした調理などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 ・自分や家族の衣生活又は住生活について課題を見付け、その解決を目指して製作や製作や調査などの計画を自分なりに工夫している。 ・製作や調査などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。 		
--	---	--	--	--

3. 生活や社会と関わる「よりよい生活者」を育むための手立て（言語活動など）

* 1 題材構成の工夫とガイダンスシートの活用。（言語活動の充実）

本題材は A（2）エ，B（3）ウ，C（3）の内容を扱い、中学校3ヵ年間の家庭科学習の集大成とする。自分や身の周りから課題を見付け、工夫し、計画を立てて実践する。家族のためにつくる夕食や、地域のための災害対策マップなど、誰かのために自分ができることを考え、計画・実践・評価を行う。家族の感想や地域からの感謝の言葉に対して自己評価をして、さらなる実践につなげていこうとする態度を育てる。

* 2 レーダーチャート（生活の自立をテーマに自分の生活を振り返り、将来の生活を展望する）

中学校入学時に目指した衣食住生活に関する自立度について、どのように変化をしたのかを卒業前に振り返る。レーダーチャートで学習前と学習後の比較をすることで、学習後の変容を確認する。

人との関わりを通して、自己と家庭、家庭と社会との重要な関係性に気付くことができたか、3年間の成長への気付きを将来の自分なりの家庭観につなげるとともに、これからの生活を展望できるよりよい生活者としての自覚をもたせたい。

* 3 ラーニングジャーナル

3年間の学習の軌跡を、題材ごとにラーニングジャーナルに積み重ねる。自分の言葉で綴った知識や技術は、将来的にも活用できる資料である。衣服のお手入れ帖や季節や地域の食材を使った弁当レポート、清涼感のある物の製作資料や調理の実践レシピなど、多様な実践記録を将来にわたってぜひ活用して欲しい。